

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年10月2日（火） 午後7時1分～8時40分
会 場 西集会所（西地区町内会）
天 気 晴れ

参加者 26人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

◆なぜ、ふじみ野消防署やふじみ野警察署がないのか。

☆人口規模によるもので、消防については、人口25万人規模として2市1町で一部事務組合を組織している。警察については、埼玉県警の所管となりますが、東入間エリアに一つとしている。川越市の人口規模になると市に一つとなっている。

◆飲料水と生活用品の確保について、実家が宮城県の山の方で津波の被害はなかったが、使用していた水道が止まり10km先まで行かないと飲料水が供給されなかった。1か月程使えなくて大変な思いをした。市の飲料水確保は10万人分に足りているのか。

☆耐震性貯水槽が5か所、飲料水用井戸が2か所、その他に生活用水井戸が9か所あります。それにより、想定される飲料水に困る47,000人分は確保しています。

◆共助として普段の生活の中でコミュニケーションを図って助け合える雰囲気を作ることが必要ではないか。

☆その通りだと思います。また、先程の井戸の他に水に関してはペットボトルも備蓄しています。災害発生直後の72時間、3日間は皆さんに凌いでほしいのですが、食糧については、1日2食と想定し1日分が市、1日分が県、もう1日分を各家庭で用意してほしい。各家庭の冷蔵庫には野菜などもあり、またお米もあるので、それを出し合って皆さんで助け合ってほしい。また、ペットボトルも備蓄していただき、お米もそうですが、使い切る前や無くなる前に買い足して常に一定量があるようにしてほしい。防災倉庫にあるミルクも消費期限が来る前に保育所で使用して、新しいものを補充して循環させている。風呂の湯も抜かないで生活用水として使用できるようにしてほしい。

お話しにあった隣近所とのお付き合いが一番大切なことで、共助の基となる。

◆災害時に市から職員が来て避難所の運営ができるように、地域と消防とで話し合いはしているのか。

☆消防署とはしていません。12月2日は、西小学校に避難して自治会の本部を

作り、そこで避難所の運営をしてもらいます。そこに6名の近隣に住む市職員が行き、市の本部と無線による情報のやりとりを実施する。避難して24時間以内は、市の職員と学校職員が避難所の設営をしますが、それを過ぎてからは地域で運営委員会を作ってもらい運営してもらいます。市職員や学校職員は市の業務や食料の調達などに当たります。今まで地域と職員が話し合ったことが無かったので、今回の訓練で実際に一緒にやることとした。

どこの会場でも話すことですが、地震が発生する時期で被害想定が違ってくる。平日なのか土日なのか、昼なのか夜なのか、夏なのか冬なのかなどによって違って来る。例えば、冬の北風が吹いている夕食時であれば火を使っている。震度6弱ならば立ってはいられないので、火を消すこともできずに火災が多発することが想定される。その時、避難所にすぐに避難するのではなく、余震もあり電柱などが倒れるかもしれないので、畑などの身近な安全な所に逃げて、自分の身の安全確保をしてほしい。そこで普段から近所付き合いがあれば、どの人が来ていないかの確認ができる。ただ隣が避難所である西小学校ならばそこに逃げてよい。そして落ち着いてから避難所に行してほしい。自分の家が大丈夫であれば戻り、家が住める状態ではない人は、避難所での生活となる。一つ危険なことは、小学校の隣が住宅密集地で、そこで火災が発生した場合、火が校舎を超えて校庭まで流れてくる可能性があること。ですから、まずは安全な場所に身を置いて命を守ってほしい。

◆川越街道と並行して走る道路が冠水する。川越街道が整備され、その雨水がその道に流れ込んでくる。

☆現在は、当時想定した雨量を上回るゲリラ豪雨が降るために下水管が対応できていない。また、最終的に流れ込む川も同様にゲリラ豪雨で一杯となってしまうことも要因となっている。お話の場所は、担当でも状況は把握している。また、必要があれば土のうを運びますので、ご連絡下さい。一昨日の台風接近でも危機管理防災課と土木の職人が夜中1時頃まで市役所に詰めていた。

◆火災について。建売が流行り、道路は二の次で建物がどんどん建設された。私の家は袋小路になっていて火災が発生した場合に逃げられない。消防署ではそのような状況は把握しているのか。

☆把握はしています。平時の場合には、消防車が入れなくても、リヤカーでホースを運んで行って消火活動をします。上福岡地区でも大井地区でも、建物建設が先行し、道は農道のままという所が多くある。ですから、災害時にいろんな場所で火災が発生した場合、対応は難しくなる。一番大切なことは、まずは火を出さないということ。火が出た場合にも消火器等を使っての初期消火が重要になる。袋小路には、私道に関係なく水道管の排水栓がある可能性があり、それを利用すれば消防車が来るまで間の初期消火に利用できる。東京都ではそれを利用して初期消火に利用することを決めているので、本市でも研究をしたい。その他に、簡易消火栓を増設するか、一定間隔に消火器を設置するか、

消火栓に直接繋げるものにするか、どれが効果的かを現在検討している。また、水道管の耐震化も進め、現在52%程度が対応している。しかし、100%ではないので、その間に災害が発生し、水道管が破損すれば簡易消火栓や消防車が来ても消火栓が使用できずに水を出すことはできない。それを考えるとかつて至る所にあった貯水槽の有効性も考えられるので、そういうものを含めて市民の方たちが自分できる効果的な初期消火方法を検討していきたい。

◆かつて西地区にもホースが備えられたものがあった。できればだれでもが簡単に使用できる細いホースを使用するものがあるとよい。

☆かつては、開発に伴って開発業者が簡易消火栓を設置していた所があった。現在、設置場所を把握する作業を進め、その管理については消防がするのか市がするのかを含めて検討している。

◆この地区の人口構成は、比較的若い人が多いので、町内会への加入を進めたいと思うが、町内会に加入していないと一人暮らしかどうか把握できない。災害の時、そういう人が会社等に行っていれば所在確認もできない。市として把握する方法はあるのか。

☆原則は、自己責任です。家族が1人でもいればその人の安否確認ができるが、そうでない場合には確認ができない。これは、若い一人暮らしの人だけではなく、独居老人など援護が必要な方も同様なことが言えます。まずは、自分の命を守るのは自分自身で、それが難しい場合には、手を挙げて名乗り出てほしい。しかし、これを全て市で把握することは難しい。また、現在、町会や民生委員の方などにご協力いただいて要援護者リストを作成しているが、高齢者の方でも個人情報主張して登録できないでいる。個人情報と命とどちらが大切なのかを考えてほしい。

◆かつて、生活安全課に、住民票担当課と連絡を取り、どういう方がどこに住んでいるか等の情報把握をしてほしいと提案した時に、個人情報の関係でできないと断られたことがあった。

☆役所内でも目的外の利用ができない状況です。

◆小学校では防災グッズを使用しているが、中学校ではない。また、中学校に居る時に震災にあった場合、中学校から家までは距離があり、どのような手段で家まで帰ってくるのか。中学校では引き取り訓練がなく、どのタイミングで返してくれるのかがわからない、連絡方法もわからない、その辺りの明確さがないと何かの時には学校に連絡をする、しかし通じないなど混乱するのではないか。

☆震災を受けて方針を変え、小学校では、保護者かそれに準じる方の迎えがない限り、家には帰さずに学校に留め置くことにした。中学校については、確認します。学校に留めた場合には、防災行政無線でお知らせすることとなると思います。

◆防災行政無線は、土日は警備員がするのか、この間は窓を開けて聞いたが何を

言っているのかわからなかった。

☆警察の要請で、急きょ放送することとなり、守衛の人が放送したものであった。

しかし、その日は休日開庁で職員が居たので、職員対応をすればよかったと思っている。女性の声か男性の声か、普段よく話している人かそうでない人かで聞こえやすさが違うようである。今回、設備を新しくするので、自動音声ができるようにしたいと考えている。

◆朝霞市を通った時に振り込め詐欺への注意について、防災行政無線の放送があったが、女性の声でよく聞こえた。

☆計画停電の時には、富士見市の方がふじみ野市の放送の方がよく聞こえたというケースもあり、聞く場所などにより違ってくる。朝霞市のことは参考にしたい。しかし、振り込め詐欺について流すと「振り込みたい人は振り込ませればよい」「寝ているのにうるさい」などの苦情が10件程度入る。防災行政無線は、家の中ではなく外で聞こえるような設定となっている。

◆道路が狭く垣根が伸びて道路に出ている所があるが、どのように対応したらよいか。

☆自分の敷地から出ている場合には、まずは町内会からお願いして下さい。それでもやってもらえない場合には、市がそこに対して剪定してもらうようお願いします。しかし、高齢でできない場合などには、了解を得て市の方で切ります。

☆もう一点お話ししたいことがあります。家具転倒防止をしてほしいということ。災害時に、寝ている所に家具が突然転倒してくるとショックで動けなくなり、逃げられないことがある。災害時にガラスや瀬戸物が散乱すると裸足では歩けずに避難できないということもあるので、枕元に靴やスリッパを置くようにしてほしい。ボールや垂木があれば、テコの原理で女性でも重いものを動かすことができる。その他にも窓ガラスに飛散防止のフィルムを貼るなど身近でそれ程費用を掛けずに、自分でできることをして自分の命を守ってほしい。

この間、職員が研修をする市町村アカデミーでセミナーがあり、群馬大学の片田教授を講師として釜石の奇跡の話があった。片田教授は、三陸地震は再び必ず来ると説くために地域で会合を開くが決まった人しか集まらなかった。子供に聞いても世界一の防潮堤があるから大丈夫と言う。そこで子供に対して教育することとした。地震があった時に、子供が安全な場所に逃げればお母さんも子供を待たずに逃げることを教え、皆がおのおの安全な場所に逃げれば皆が助かることを教育した。釜石の子供たちに逃げるリーダーになりなさいと教え、まずは自分の命を助け、そして逃げる時には小さい子供やお年寄りを助けて逃げなさいと教育した。その結果、釜石の子供たちは助かり、震災の日にたまたま休んだ子だけが犠牲になった。

大切なことは、皆さん自身が災害に対する意識を高く持つこと。時間が経つと地震があっても大したことはないと思ってしまう。風化させないことが大事。